

# 稲門英語会だより

第9号  
平成13年  
11月1日

♪英国よいとこ♪  
一度はおいで♪

小川 和子



人生の約半分を英国、ロンドンにどっぷりとつかっている。そして、良くも悪くも英国人以上により英国人らしい生活をしていると思う。

女子高校卒業後、本来ならばその短大を出て結婚でもして、よき奥様におさまっている筈なのに、どういわけか早稲田に入学。しかも大学生活の大半はESSという日本人同士でも英語を話さなければいけないという「きびしい」規則のクラブで、おかしな、但し一所懸命な人達と過ごした。

その結果、ツアオペレーターという仕事についてしまった。過酷な労働時間、低賃金に耐えられたのも、ESSで学んだ(?)好きな英語を話す、ロンドン転勤のチャンスがあったからである。

海外脱出：まさにその通り。脱出という意味は「危険な場所からこっそり逃げ出すこと」であるが、私の人生に日本人の平均的生き様が危険をおよぼすだろうという判断から逃げ出したきたのだから「こっそり」はあてはまらないだろう。

そして、ほぼ二十年ほど前から知る人ぞ知ると言われている(でも知らない人が多い)「ブルーバックス・ガイド」として仕事をしている。いわば、観光ガイドの国家試験に合格するために、英国の文化、歴史、地理もさることながら

訪問客が興味をもつ事柄等々(美術・建築・教育...)を学んだ結果である。このパッパは、私にとっては勲章であり、私は英国紹介の民間の大使でもある。

その間数えきれない人達に接してきており、それは少なく見積もっても、六・七万人以上。その人達の観光案内及び通訳をしてきたことになる。

まさに訪れる人は千差万別であり、旅行形態も多種多様であるが、一言で言えることは「ホリデイ」ではなく「忍耐くらべ」である。団体旅行に参加した経験のある方はお分かりであろうが、少しも休むことなく、一分一秒たりとも無駄にしないように、スケジュールが組まれている。客は客で、時間のことなど考えずに、アレも見たい、コレも見たいからのツアーに申し込もうと決めるのである。

その結果が、博物館を十五分で(一)見るということになる。「あの有名な博物館、美術館に行ってきた!」これが大事なのだぞうだ。何ということ! ロンドンには大英博物館がある。内容が実にすばらしい。しかも無料で見学できる。

日本観光客の殆ど(特に男性)は、エジプト、ギリシャの展示物を見ると、「これはみんな戦利品で、要は盗んできたものぞ」と言いつつ、カラカラと笑って「だから無料なのだ」と勝手に判断して満足しているのである。

以前はいろいろと反論したり、説明をしてみたが無駄。今はもう同情をもつて微笑するだけになった。また日本のオジサン達は、外国へ出たら青い目の美女と何とかお近づきになれるのではないかと期待してくることが多くあった。今は一掃されてはいるが(実は外

見だけでも知らないが...)そういう地区もあった。ところがそんなオジサン達はもういないかと思っていたら、実はまだまだいる。街の案内を聞くのもそこそこ、まじめな顔をして何を聞くかと思うと、女の世話を焼いてほしい、というのである。

どういふ果ては「ネエちゃん(私のこと)はどうかね。部屋番号は...」まったくあいた口がふさがらないとはこのことである。心の中は嘆かわしい気持ちでいっぱいなのだが、「冗談でしょう」と笑って、結局は、安全なストリップ劇場を紹介する。でもその方がずっと楽しいに違いない。

英国旅行を十分に楽しみたいわっていただくためには、自分の足で歩き、歴史上の人物の作り上げたものをしっかりと自分の目でみてほしい。ロンドンには、いくつもの大きな公園が街の中心にある。このスペースを肌で感じてほしいのである。心の余裕、豊かさがヒシヒシと伝わってくる筈だから。

勿論、前記のような情けない人達もいれば、熱心にも楽しんでいる人達も数多くいる。これは明記せねばならない。英国へ来るたびに指名を下される人達も幸せなことに数えきれない。

さまざまなお出でを覚えてくれた観光客に感謝しつつ、「ここはまさに天国です」というゴルフに興じる客の話し相手しながら、今後ともいつまでもこの仕事を続けようと思う。

♪英国よいとこ♪一度はおいで♪  
ウイスキーはうまいし、姉ちゃんも、景色もきれいなゴルフも安くてし放題!

(昭和39年卒業)  
場所/「リーガロイヤルホテル早稲田」TEL. 03-52685-1121 会費/10,000円です。多数ご参加ください。

今や英語は学歴時代から使う時代へとなりつつあります。WESSの先輩、後輩の方々は、現在英語とどのように接しているのでしょうか?

◆アンケート項目◆

① あなたがESSの活動の中で、得られたことは何ですか?  
② あなたは、現在、英語を何か有効に使っていますか? 使っていない方は、どうしてですか? または、今後どのように使いたいと思っていますか?  
③ 連絡事項、会員情報、近況報告など

佐久間 央 (S.16年卒)

① かけがえのない一生の親友。大東亜戦争中、敵国語を勉強しておいて、敗戦後に大いに役立った。  
② 使っていない。82才になり、日本語の新聞、雑誌、書籍を読むのに精一杯です。  
③ 英語会同期卒業生が、「さくららぶ」と称して年4回程度懇談している。酒を飲み、よまやま話に花が咲く。ただし、健康、家庭の事情で参加者が減り、近頃は渡部博、高橋文彦、黒澤嘉幸と小生が常連と寂しい。

中瀬 洋一 (S.18年卒)

① 出来るだけ多くのESSの先輩と知り合うことがESSの発展の為になると思っています。  
② 日本郵船在任中、ロスアンゼルス代理店に机を置いて、単独駐在を3年勤めました。その間、主として棉花の集荷に成功しました。その後、郵船を卒業、八馬汽船社長に就任してすぐマレーシアに船代理店を設立。現地人の有力経済人に会長と常務に就任してもらい、お陰で業務は大変発展しました。英語で楽しく会話が出来ることが大切です。

豊田 誠 (S.21年卒)

① ESSの活動の中で英語をまがりなりにも出来るようになったこと。これはENGLISH ONLYを合宿でやったためです。恥ずかしがらずに喋ることが一番大事です。ESSで英語だけの勉強でなく良き友人を持つこと、哲学その他人間そのもの勉強、人生観の確立をすること、それには大いに人生等について友人同志議論をすること。  
② 会社で活動中(今は卒業)、英語を使う

川口 程三 (S.22年卒)

① 敵性外国語。このような言葉には最近の学生は余り馴染みがないと思います。我々戦中の英語学修は当時学友に「何故英語なんかやるんだ」等とよく言われ嫌な思いをしました。  
ESS人として将来の為に大切なことは、互いに英語の研鑽を通じ、生涯の友人をつくることに尽きると確信しています。その点、戦争で多くの貴い学友を失った我々は、極めて不幸な人生を送ったことになると思わざるを得ません。  
② 戦後貿易会社に入社、世界を相手に大いに英語を活用しました。  
現在は残念ながら英語を余り必要としない仕事についています。

中瀬 正一 (S.24年卒)

① 私がESSに入った昭和18年から太平洋戦争末期、敗戦とESSを繋いでいくのが私達の仕事だった。幸い優秀な後輩諸君にも恵まれ、終戦の昭和20年他校に先がけてスピーチ・コンテストや英語劇を復活することが出来、更にワセダ・ガディアンズの復刊、他校のESSと協力して日米学生会議の復活が出来たことも良い思い出である。  
② 英語のお陰で入社して、戦後間もなく海外勤務になり、帰国後も輸出担当として毎年のように海外出張を命ぜられた。その後8年間ニューヨーク勤務でカナダの製紙用パルプをアメリカ国内で売る仕事を担当し、海外に多くの友人、知人を得ることが出来たことを感謝している。

鳴澤 重夫 (S.26年卒)

① 極めて月並みですが「英語」特に「英会話」に相当習熟出来たことです。また、当時は入学後2年目くらいになると同

年のアクティブメンバーは12~13名となり、大変親しい友人関係が出来ました。その交友は今でも続いております。小生、卒業後三井物産に入社し、通算18年間の海外生活を送りましたがESSでの英語が大きく役立ちました。

② 私の長女は私の豪州生活(メルボルン・パース・シドニー)中、青春時代の11年間を過ごし、結局英国人と結婚。現在長男(7才)長女(5才)と共にマレーシアのクアラランブルに住んでおります。従って私が娘の夫と話す時は全て英語です。孫達との会話も英語中心であり、彼等とのコミュニケーションには英語が不可欠となっております。

佐々木 猛 (S.27年卒)

① 同じ目的を持った先輩、同期、後輩の方々とクラブ活動での連帯感。就職後、貿易部門海外事業部門が長かったので英語がツールとして役立つこと。  
② 退職後4年半、英語を使う機会はありません。街中で困っている様な外国人を見かけたら、「メイアイヘルプユ」と声をかける程度です。

犬丸 昭 (S.28年卒)

① 戦時中2年間少年飛行兵として英語抜きの特訓教育を受け、戦後も回りをし早稲田入学が昭和23年。英語力向上のため、慣用句や諺を含む500程の例文を集めて音読し、その大部分を暗唱できた。ESS時代はスピーチに注力、昭和26年度の幹事長として貴重な経験を、有意義な学生生活を送ることができたことを深く感謝している。

鈴木 裕 (S.29年卒)

① ESSに入部した日のショック。皆が自在に会話を楽しんでいる。ペナルティボックスが気になって、一言も話せず部屋を出た。翌日を取り直して部屋を訪れた。諸先輩ともそれぞれ自分の言葉で会話がはずむ。そうだ、自分らしく、恥を恐れずに話さないと上達は望めない、とひそかに思った。  
Practise makes perfect. また、語りはpersonalityそのものでもある。  
② 入社時、調書にESSと書いたらしい。社が米GE社と合併会社を設立した時のこと。営業経験と英語力を基準に入選の

**「益々広がる稲門会情報ネット、友好の輪」朝食会「国際研修会」報告**

朝食会「国際研修会」では、稲門英語会出身講師により、毎回の講演は、今を語り、分析し、そして近未来を直言してくれます。最もユニークなのはQ&Aセッション。質問ではなく意見になりがちで、時にはディベートが始まってしまいます。知的探求心と新たな交流に興味を失ったら人生も黄昏。黄昏はごめんだと思われる方、早起きは問題ないという方は、是非一度ご参加ください。第20回は11月28日(水)講師に脇若英治氏(BP日本代表)を迎え「グローバリゼーション」をテーマに行われる予定です。問い合わせ、参加申し込みは、朝食会「WESS」国際研修会世話役 一花穂(39年卒) TEL.03-5551-1300 FAX.03-5551-1301 または関根次郎(42年卒) TEL.03-5798-4793 FAX.03-5798-4799まで

**WESS就職懇談会 開催**

2月10日大隈会館にて早稲田大学英語会3年生15名と、新聞、金融、放送、広告、セキュリティの各界OB5名が出席。変化の激しい時代に企業側はどんな学生が欲しいか、どんな学生は欲しくないか、学生はどんな対応をしたらいいかなどが議論の中心となりました。次回は学生の要望もあつて時期を早め、11月下旬に行うことに決定しました。

